令 和 元 年 度　学 校 評 価　関 係 者 評 価 票

学　校　名	兵 庫 県 立 姫 路 南 高 等 学 校

本年度の学校経営方針

①「時習窮理」「自主特立」「信義執禮」の校訓のもと文武両道を体現し、身体や感性を大切にしながら意欲的によりよい社会の創り手となる人間を育成する。
②人権尊重・個性尊重を基礎として、学校・家庭・地域の連携を深め、信頼される学校づくりを推進する。

総合的な自己評価

過年度比較において、3つの重点項目のほぼすべての評価の観点で、生徒評価結果の上昇が見られる。特に、いじめの早期発見・早期対応、教育相談・特別支援教育の2領域での上昇の度合いが高い。担当教員のこれまでの地道かつ真摯な取り組みに対する認知度の高まりによるものと判断している。しかしながら、教員自己評価結果と生徒・保護者評価の結果にマイナス方向の乖離が見られ、取り組み状況等についてのより適切な情報発信並びにその共有が必要であると考えられる。重点項目「学力向上・個性や創造性の伸長」においては、学力の定着・伸長及び進路指導の在り方についての教員自己評価結果に過年度比較における低下が見受けられる。この状況の改善に向けて、進路指導部及び学力向上委員会を核として、各学年団との協働のもと、具体的課題解決策の立案・実行に取り組んでいく。生徒・保護者の本校での学校生活に対する満足度はともに向上しており、引き続き個々のニーズに可能な限り対応する個に応じた指導の充実に努めていきたい。

総合的な学校関係者評価

学校の教育活動において、よりよい学校・学年にするため、多様な生徒、保護者の要望に応えた取り組みがなされており、保護者・生徒の評価は多くの項目で評価が高くなっている。しかしながら、項目によっては問題点や課題点があり、改善を求めるために低い評価になっている。低い評価の理由の一つには、様々な取り組みが保護者に伝わっていないことも考えられる。 職員の自己評価については適切と思われるが、12月評価が7月評価と比較して多くの項目で低下しているがどのような理由が考えられるのか。その原因、理由を全職員が共有、理解し、課題を明確にすることによって改善に向けた具体的な取り組みがなされて解決されていくことを期待したい。重点項目の学力の向上と個性や創造性の伸長において、職員の評価が生徒、保護者の評価より低い項目が多いことと評価を「2」、「1」にしている項目があることについて、どのような理由があるのか考察していただきたい。アクティブラーニングは、従来の教育方法を改革するために取り入れたと思うが、昨年と比べてよく実践されていると思う。今後も各教科の授業や総合的な学習の時間において推進していただきたい。タイムマネージメントの取り組みは大事で、入試のためだけでなく、生徒本人が計画を立て、学校内外の活動を意識して選択して行動できるように指導していただきたい。将来、必ずや役立つと思う。地域に信頼される学校づくりでは、いろいろな交流に取り組まれていることに対して地元住民としても応援している。交流がさらに広がっていくを期待したい。学校の経営方針は申し分なく、学校・家庭の連携も出来ており、校外においても生徒の皆さんのモラルの高さを実感している。今後、社会に出ていくにあたり、他人を自分と等しく尊重するという気持ちを持つことが大切で、その大切な気持ちが養われていると思う。今後も生きる力を育み、心豊かで自立した人づくりに取り組まれることを期待したい。今後、取り巻く環境が大きく変化する中で、出てきた課題に対して着実に解決策を実施することで、さらによい学校環境になることを期待します。

（ 5:思う 4:やや思う 3:どちらともいえない 2:あまり思わない 1:思わない ）
ただし、評価項目9については（5:50%程度 3:30%程度 1:10%程度）

重点項目	評価の観点		評価項目	職員7月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	7月平均	実施事項	職員12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	12月平均	保護者12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	保護者平均	生徒12月評価 %（小数第1位を四捨五入） 5	4	3	2	1	生徒平均	改善の方策と考察	学校関係者評価
生きる力を育みこころ豊かで自立した人づくりの推進	生命と人権が尊重される、安全安心な学校づくりを推進している。	1	生徒がお互いを思いやり、生命と人権を大切にする心の教育をすべての教育活動を通して行っている。	20	48	23	10	0	3.8	人権教育講演会	34	39	12	5	7	3.8	30	34	31	3	2	3.9	42	32	20	4	2	4.1	山口県人権啓発センター事務局長の川口泰司氏による「部落差別について」の人権教育講演会を通して、人権問題を正しく理解し差別を解消していく学びが行えた。昨年度より生徒評価が0.2ポイント上がっており生徒の人権意識が高まってきている。	A 昨年に比べてほとんどの項目で生徒の評価が上がっており、満足度も増している。項目によっては保護者の評価が生徒の評価と差があるので保護者への周知度アップも必要と考えられます。人権教育講演会で、職員評価は両極に分かれているように思いますが、何が理由なのか考えていただきたい。入学して嫌な思いをされている方が、ゼロになるように、一層細部まで生徒を観察していただきたい。安全教育だけでなく、衛生教育にも力をいれていただきたい。例えば、今年は新型コロナウイルスが社会問題化しています。項目7で職員の12月評価で「1」や「2」と評価した方が大きく増加しているが、どうしてなのか理由を考えていただきたい。
	いじめの早期発見・早期対応を行う。	2	生活実態調査やきめ細かな面談等でいじめの早期発見に努めている。	43	40	13	5	0	4.2	いじめアンケート	56	27	5	10	2	4.3	18	25	52	3	1	3.5	34	24	37	4	2	3.9	各学期にいじめアンケートを実施。小さな事案にも即日対応を行い解決に向けて丁寧に会議を重ねた結果、昨年度より生徒評価が0.3ポイント上がっており生徒が教員に相談する意識が高まってきている。いじめ対応チーム会議実施回数：20回	
	生徒の個性を尊重する生徒指導が行われている。	3	家庭との連携を密にして、生徒の内面理解に努め、個々に応じた生徒指導を行っている。	30	48	10	10	3	4.0		34	42	12	10	2	4.0	21	35	35	8	2	3.7	27	31	29	11	3	3.7	昨年と同様、職員評価と保護者・生徒評価との結果にやや開きがあり、また今回生徒の評価が0.1ポイント下がっている。今後なお一層の職員間の情報交換、連携をさらに徹底するとともに、家庭への連絡を密に行い生徒・保護者に理解を求めたい。	
	さまざまな場面で生徒が自主性を発揮できるよう指導する。	4	学校行事や生徒会活動・部活動等が、生徒の自主性に基づき活発に行われるように指導している。	48	43	3	5	3	4.3		44	30	20	2	5	4.1	40	35	15	5	4	4.0	54	25	10	6	4	4.2	文化祭等において、生徒が主体性をもって企画・運営を行った。また、昨年に引き続き限られた時間・空間の中でこれまでの枠組みにとらわれず、新しいものを創り出すことができた。また、テレビ取材を通して生徒会役員、コーラス部により学校での生徒活動を校外に向けて発信できた。	
	安全教育を行い、命を尊重する態度を養う。	5	救急救命講習や交通安全講習・防災訓練等を通して自他の生命を尊重する安全教育を行っている。	43	43	13	3	0	4.3	救急救命講習・防災訓練	39	42	12	7	0	4.1	19	38	37	4	1	3.7	35	35	20	7	2	3.9	「職員対象危機対応シミュレーション（演習）」を実施し、緊急時における必要な初動・初期対応を全職員で共有することができた。次年度も継続し実技を含めた緊急対応について全教職員で研修を深めたい。	
	国際的視野を持った生徒の育成に努める。	6	国際交流活動を積極的に推進し、生徒の国際的視野の拡大を図っている。	28	50	13	8	3	4.0	ヴァッション受け入れ生徒募集	22	49	15	12	2	3.8	26	34	32	7	1	3.8	45	31	15	6	3	4.1	VIHSとの国際交流プログラムだけでなく、第24回ひめじ国際交流フェスティバルボランティアへの生徒派遣など全校生徒に周知したことが生徒の評価がやや上昇した理由の一つと考えられる。保護者と生徒の評価と差に課題があり、保護者へ周知する必要がある。	
	教育相談や特別支援教育を充実する。	7	キャンパスカウンセラーとの連携を密にし、生徒の心を支える取り組みを推進している。	53	35	10	3	0	4.4	キャンパスカウンセリング	54	22	10	12	2	4.1	22	34	37	5	2	3.7	32	32	27	6	3	3.8	キャンパスカウンセラー来校日を昨年度の24回から3回増やし、今年度は年間計画を27回として実施している。そのため今年度は生徒保護者のカウンセリングだけではなく、職員も生徒対応や保護者との連携について、ケース会議や連携会を密に行うことができた。次年度も継続し、支援や配慮が必要な生徒に対してきめ細やかに対応していきたい。	
学力の向上と個性や創造性の伸長	自ら学び探求する姿勢を身につけさせる。	8	学問の魅力を伝え、自ら考え勉学に励む態度を育成している。	3	60	33	5	0	3.6		10	51	24	12	2	3.5	15	33	40	10	2	3.5	16	32	33	14	4	3.4	保護者と生徒の評価について、4以上の割合が教員に比べて低く、また、昨年に比べて下がっている。学問の魅力が生徒に伝わるような授業が展開できるように、今まで以上に授業改善を進めていきたい。	
		9	主体的、対話的で深い学びの実現に向けて、アクティブ・ラーニング型授業を実践した。（5:5回以上 3:1～4回程度 1:実践したことはない）	27		68		5	3.4		53		45		2	4.0													ひょうご学力向上サポート事業指定校の取組みとして、アクティブ・ラーニング型授業の導入に取り組んでいる。先生方の協力で実施の割合・頻度が上昇している。今後も引き続き取り組みを進めていきたい。	
		10	アクティブ・ラーニングを授業に取り入れた場合の構成割合はどの程度ですか。（5:50%程度 3:30%程度 1:10%程度）	25		38		36	2.8		23		54		23	3.0													授業の中の構成割合は高い方が良いということではなく、生徒に主体的に授業に参加させることが目的である。教科・科目の特性に合わせて実施できていることは評価できる。	
	指導目標の明確化や指導方法の工夫をするなど授業改善に取り組んでいる。	11	計画的に研究授業や公開授業を行い、授業内容や指導方法について意見を交換し、授業改善に取り組んでいる。	20	50	20	10	0	3.8		32	37	17	15	0	3.9	14	32	42	9	3	3.5	20	34	31	12	4	3.6	学校訪問指導やひょうご学力向上サポート事業等での研究授業を実施し、生徒の評価が昨年より上昇している。さらに、校内実施の研究授業、公開授業週間を活性化し、授業改善に向けてお互いに研鑽していきたい。	
	自らの能力を自ら向上させる基礎力を養う。	12	生徒自身にタイムマネジメントを行う習慣を身につけさせ、家庭学習を定着させる指導をしている。	13	35	40	13	0	3.5		0	44	44	12	0	3.3	17	33	34	12	4	3.5	20	32	33	11	5	3.5	教員評価・生徒評価ともに4以上の評価を目指したい。また、ポートフォリオへ学習計画や日々の学習記録なども入力するなど、タイムマネジメントの具体的な方法を指導していく必要もある。	
	基礎学力の定着と応用力の伸長をはかる。	13	小テストや週末課題等を活用して、生徒に基礎学力を定着させるよう努めている。	35	48	13	5	0	4.2		34	34	17	12	2	3.8	21	38	29	9	3	3.7	34	37	20	7	3	4.0	朝のSHRでの小テスト実施など、基礎学力の定着に向けての取り組みができている。学びの基礎診断の分析会も実施し、学力向上につなげることができた。さらに、主体的に考える力の向上など、応用力の伸長に向けての取り組みを推進していきたい。	
	進路指導が、組織的・計画的に実施されている。	14	進路指導が、年間計画に基づき、かつ職員間の連携を密にして、組織的に展開されている。	23	45	18	10	5	3.7		10	44	22	17	7	3.3	23	37	27	9	3	3.7	32	37	20	8	3	3.9	年間計画に従って進路目標の実現に向けた指導に取り組んでいる。次のステップに向けて今一度職員間で目標の確認と共有を行い、年間計画の見直し等の具体的対応策を検討していく。	
	キャリア教育が充実している。	15	職業人による講話・大学出前講義・就業体験や大学訪問等を通して体験的なキャリア教育が展開されている。	35	43	18	3	3	4.1	職業人講話・大学模擬授業・大学訪問・科学実験教室 ・算数教室	27	49	15	7	2	3.9	22	35	27	13	3	3.6	33	35	21	9	2	3.9	特に地域の子ども対象の科学実験教室ボランティアや日本製鉄工場見学などの、体験的なキャリア教育に積極的に参加した生徒の評価は高いと考えられる。	
	進路目標達成のための指導体制が確立されている。	16	進路情報の共有や、進路目標達成のための方法が各職員の進路指導に活かされている。	3	60	18	20	0	3.5		7	51	24	10	5	3.4	21	34	34	10	2	3.7	30	37	23	7	2	3.8	2021年入試の大きな方針が変更されたことによって、進路情報を把握することが難しい状況である。	
	知・徳・体の調和がとれた人間を育成する。	17	文武両道の精神にのっとり、学習にも部活動にも意欲的に取り組ませている。	35	33	25	8	0	4.0		24	39	22	12	2	3.7	36	35	19	7	3	3.9	49	29	12	6	3	4.1	「文武両道」「三兎を追う」のスローガンのもと、各部活動が健全かつ活発に活動している。より合理的でかつ効果的・効率的な活動の推進に向けて研修機会を設定する等の具体的な取組を企画・立案・実施していく。また、部活動指導と進路指導の在り方等の検討に取り組み、そこで得た最適解にもとづき、さらにバランスのとれた学校生活の実現を目指す。	
地域に信頼される学校づくり	外部組織と積極的に交流し、教育活動を展開している。	18	地域の行事に積極的に参加するとともに、様々な奉仕活動に取り組んでいる。	25	45	25	5	0	3.9	地域防災訓練参加・ふるさと貢献事業・大津ふれあい音楽祭	17	61	10	10	2	3.8	18	32	38	10	2	3.5	23	33	30	9	4	3.6	昨年度とほぼ変わらない評価である。学校・地域防災訓練については、多様な世代からの学び機会となるとともに、災害時における共助の精神を養うための貴重な機会として有効に機能させることができた。今後も、特色選抜生徒による成果発表会等、新たな地域連携の在り方を模索していく。しかしながら一部の生徒参加で休日に行われたために、生徒全体や保護者への周知度が低かった。また、長期休業中のボランティア活動への参加もさらに広く生徒に呼び掛けるとともに、広報にも努めたい。	C 地域行事、奉仕作業に積極的に取り組まれていることについては地元自治会としても応援しています。一部のクラブだけでなく、全てのクラブと外部の小・中・大学校のクラブや学習活動での交流が出来るようにしては如何でしょうか。情報が伝わらない時があり、メールなどでも発信していただきたい。
	地域の学校と連携を取り、交流を図っている。	19	小中学校や大学と連携し、学習活動や部活動での交流を図っている。	13	50	30	8	0	3.7		17	46	20	15	2	3.6	14	28	44	11	3	3.4	13	24	37	19	8	3.2	部活動を通じた地域交流として今年度は、コーラス部による地域の方々対象の「発表演奏会」、ソフトテニス部による近隣中学校生徒を対象とした「ソフトテニス研修大会」に加えて、野球部による近隣小学校生徒を対象とした「少年野球教室」を新たに実施した。今後も特色選抜生徒による成果発表等、新たな地域連携の在り方を模索していく。	
	保護者や地域住民に積極的に情報提供している。	20	定期的に学年通信等を発行、,ホームページを更新し、学校生活の様子がわかりやすく迅速に公開されている。	35	55	8	3	0	4.3		44	39	7	7	0	4.1	19	33	33	11	4	3.5	21	31	34	11	4	3.6	昨年同様、職員に比べ生徒・保護者の評価が低い。HPでは、写真等で行事内容をわかりやすく伝えるとともに迅速に更新する。学年通信等は、保護者の手に渡っていないのが現状である。HPで各通信のバックナンバーの閲覧ができることも入学時やPTA総会等で保護者に広報する必要がある。	
		21	お子様は、本校での高校生活に満足していると思いますか。														43	33	14	6	4	4.1	56	25	10	5	4	4.2	昨年度より0.2ポイント上昇し、全項目の中で最も高い評価をいただいた。一方で否定的な評価も9ポイント	に達している。生徒、保護者の多様なニーズに配慮するため、より一層丁寧な学年経営が必要である。	D 高い評価で今後も期待に応える取り組みをしていただきたい。半分以上の保護者がHPを見ていることは評価しますが、学校側の一方通行になっていることは残念です。生徒の学校生活やクラブ活動での写真やビデオ等をセキュリティーに気を付け、該当する生徒・保護者に閲覧できるようにして、HPを身近にすれば如何でしょうか。
		22	本校に入学して良かったと思いますか。																				57	23	10	5	5	4.2	昨年度より0.2ポイント上昇し、評価項目21とほぼ同様の高い評価をいただいた。前項と同様、生徒に寄り添った丁寧な学年経営が必要である。	
			本校は保護者や地域の期待に応えていると思いますか。														20	36	32	9	2	3.6							上記2項目の評価と大きな差がみられ、項目8,19の評価が低いことに関連があると思われる。保護者や地域の多様な期待に応えることは容易ではないが、各項目の改善を重ね、期待に耳を傾け、学校の方針を丁寧に説明していくと同時に、適切な情報発信を充実させる。	
		23	本校の学校評価の結果（ホームページ上に公開）をご覧になったことはありますか。 （2:はい 1:いいえ）																	53	47							学校情報へのアクセスがより容易になり、部活動情報等、学校の最新情報を得やすくなったが、学校評価については昨年と同じで約半数である。関心を持ってもらえるようにPTA総会などで丁寧に説明をしていく必要がある。	